

05

May
2026

[月刊] キリスト教書評誌

本の ひろば

HON-NO-HIROBA



ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター
1957年7月17日第三種郵便物認可
2026年5月1日発行(毎月一回1日発行)
第821号

出会い・本・人

心を守る道の途上で 野口幸生

特集シリーズこの三冊!

AIについて考えるなら、この三冊! 濱崎雅孝

本・批評と紹介

越川弘英著

きのうの教会・あしたの教会 2025土X 松田和憲

塩谷直也著

中年の祈り 友納靖史

ピーター・A・ハフ著/藤原淳賀、豊川 慎訳

神学は語る ファンダメンタリズム 森本あんり

鎌野善三著

チャレンジ! デボーション 藤本 満

N・T・ライト著/前川 裕訳

新しいパウロ 鎌野直人

ジョン・ディア著/志村 真訳

道を歩む 佐藤真史

辻 学著

NTJ新約聖書注解 第1ペトロ書簡 朝岡 勝

小見のぞみ著

みんなで神の国を 岡田 仁

◆ 近刊情報

◆ 書店案内

教文館創業140年
記念限定復刊!



H・バルツ、G・シュナイダー「編」**荒井献、H・J・マルクス**「監修」
新約聖書本文に現れる全ギリシア語語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類なき事典として、刊行以来多くの方々にご愛用いただいていたロングセラーを小型化・軽量化。

●A5判・1788頁・定価69,300円

ギリシア語新約聖書釈義事典〔全巻セット縮刷版〕



『キリスト者の自由』を読む E・ユンゲル「著」佐々木勝彦「訳」 ルターと現代神学

キリスト者は自由な主人であり、自由な僕である!

ルターの福音信仰の魅力を明らかにした古典的名著を、現代神学との関係から再読。「神と人間」(外的人間と内的人間)、「自由と奉仕」の関係に新たな光を当ててみる! プロテスタンティズムの本質を理解するためにも必読の書。

●B6判・180頁・定価2,640円

ルターの生涯・思想・著作を学ぶための関連書籍

徳善義和著 ●四六判336頁定価2,750円

マルチン・ルター 生涯と信仰

T・カウフマン著 宮谷尚実訳

ルター 異端から改革者へ ●四六判190頁定価1,760円

マルティン・ルター著 徳善義和ほか訳

ルター著作選集 ●A5判696頁定価5,280円

マルティン・ルター著 金子晴勇訳

ルター神学討論集 ●A5判344頁定価4,180円

徳善義和著 ●四六判340頁定価4,180円

自由と愛に生きる 『キリスト者の自由』全訳と吟味

オンデマンド版





心を守る道の途上で

野口幸生

何で私はこんなに生き辛いのかと奥底で思っていたのでしよう。大学で心理学を専攻した私は、その年にキリストに出会い受洗。周りにも生き辛さを抱える方々が多く、三年次にはクリスチャン・カウンセラーを目指していました。翌年、牧者・教師としての主の召しを覚え、学びを心理学から神学にシフトしても、心の苦しみが起る理（ことわり）を知れば少しでも助けにならないかと渴き続けました。

例えば「信仰によって」と言うなら、そこで言う信仰とは何か？実際に何が？少なくとも人間の側で起っているのか。信仰と心のイメージの誤用・混乱が起こす言わば二次災害を牧会的に防ぐためにも、せめて人間学的に高い精度で妥当する心の理が（例えば疫学の発展に類似して）提唱されているなら知りたい。そしてその理を神学したいと、副次的に認知科学や社会学また精神分析等を、細く長く本から学んていました。

加藤常昭先生が紹介・訳された『G・イミンク』『信仰論実践神学再構築試論』（教文館2012）には、同じ途に導かれた先達がいたのだ、この方向で私も進んでいこうと、途上で見つけた道標のように励まされました。

その後『責任』の生成―中動態と当事者研究』國分功一郎・熊谷晋一郎（新曜社2020）の中で、「自由エネルギー原理」の提唱者カール・フリストンを知りました。誰？と思いましたが、心に長く引っ掛かり、やがて関連書を読み漁りました。心の「信じる」理と、その病理を（人間学的に限定されますが）ここまで高い解像度で提示できる時代が来たかと衝撃を受けました。その内容を紹介する力も紙幅もないという言い訳しかできませんが、この先に新しく開ける、主の福音にお仕えする心の神学が、聖霊様に導かれますようお祈りいたします。

（のぐち・ゆきお 日本基督教団高知東教会牧師）



▼シリーズ この三冊！

AIについて考えるなら、この三冊！

濱崎雅孝

(はまざき まさたか・大学講師)

私は大学で講師の仕事をしています
が、二年前から学生の授業に対する
姿勢が微妙に変わってきたのを感じま
す。授業内でリフレクションシートな
るものに質問などを書いてもらおうと、
たまに驚くべき知識量（もちろん生成
AIに聞いたもの）で反論してくる学
生がいて困惑することがあるのです。
課題レポートにしても、以前ならイン
ターネットで検索したことをそのまま
書き写したのを見破るには、私のほ
うでも検索すればよかったです。

生成AIに書かせたものをそのままレ
ポートにしたものは、学生本人が書い
たのではないという証拠を挙げるのが
難しい。そういうレポートに対して成
績をつけることに何の意味があるのか
という疑問も生じてきます。たまに学
生が（というよりAIが）私のよく知
らないマニアックなことを書いてくる
と、こちらもその意味をAIに聞いた
りして、自分がAIとAIの対話を仲
介していることに気づいて虚しくなり
ます。他の先生方も対応には悩んでお

られるようで、レポート作成にあたっ
て生成AIの利用を完全に禁止してい
るところもあるようです。しかし、生
成AIとの付き合いは今後も避けるこ
とができないと思うので、禁止にする
ことが本当に正しい対策なのか、私も
納得できる答えにはたどりついていま
せん。これは教育界に限った話ではな
いでしょう。さまざまな分野の人から
AIとの付き合い方に迷う声が聞かれ
るようになりました。「シングュラリ
ティは近い」などといって、AIが人
間を超える日が来るのを心配あるいは
期待する前に、私たちはAIとどのよ
うに付き合っていけばよいのかを真剣
に考えなければならぬ時代に生きて
います。

そこでまず紹介したいのが、
『ChatGPTと神が悪魔か』（宝島社新書）
です。落合陽一をはじめ和田秀樹や池
田清彦などの著名人がChatGPTとこの

ように向き合っているかを報告してくれている本です。特に私が先ほど述べたことに関連しているのは『超』整理法』で有名な野口悠紀雄氏による第三章です。生成AIを教育や経営に活用する方法から、生成AIが知的労働に与えるインパクトなどを非常に具体的に論じてくれています。ChatGPTがとんでもない間違いを平気で生成してくる「ハルシネーション」には注意が必要です。活用が、活用の仕方次第では強力な味方になってくれることが分かります。野口氏も言うように、人間の教師よりもChatGPTに質問した方が的確な答えが即座に返ってくるという事実は否定できません。そうなると、人間の教師はもう要らないのではないかという予感に少し背筋が寒くなりますが、野口氏は生徒の人格形成という面では今後人間の教師が必要とされるだろうと述べています。そのためには教師の方

がまず人格的に良い影響を与えられる人間になっっていなければならぬでしょう。しかし今はAIも人格をもっているように見えてしまう時代です。『ChatGPTは神か悪魔か』という問いに対して、「AIそのものは善でも悪でもない。人間がそれをどう使うかの問題だ」と思う人は、まだ生成AIがもっている本当の怖さを知らないと言われても仕方ないかもしれません。

そこで次に紹介したいのが西垣通と河島茂生の共著『AI倫理』（中公新書ラクレ）です。西垣氏の著作は三〇年くらい前に出た『思考機械』（ちくま学芸文庫）から個人的にフォロワーしていました。その理由は、西垣氏がコンピューター専門の工学博士でありながら文学的教養も豊かで哲学的な議論にも深く切り込んでいるからです。西垣氏単著の『AI原論』（講談社選書メチエ）も

お勧めしたいところですが、『AI倫理』のほうが読みやすいと思います。二〇一九年九月に刊行されているのでChatGPTなどが出現する以前のもですが、生成AIの問題を考える上でも押さえておきたい内容で、「四〇年もAIの盛衰をながめてきた」（4頁）著者ならではの鋭い洞察が光ります。「まえがき」で紹介されている「AI搭載の自動運転車が事故を起こしたとき、誰が責任を取るのか」といった問題は、今や誰もが考えざるを得なくなっているのではないのでしょうか。あのサンデル教授の「ハーバード白熱教室」で広く知られるようになった「トロッコ問題」（ブレイキが壊れたトロッコの進路上にいる五人を助けるため、レバーを切り替えて一人を犠牲にするのは許されるか、という倫理学の思考実験）も、「そのような状況で自動運転のAIはどのような判断を下すのか」という問題

として、より現実感が増しています。すでにAIに何らかの人格性を認めた議論は始まっているのです。このAIの技術開発にはこれまで二度の大きなブームがあり、二〇一〇年代から現在まで続いているのは第三次AIブームと言われています。この第三次ブームの特徴は「深層学習」と呼ばれる認識システムが導入されたことです。詳しいことは本書を読んでいただいたほうがよいのですが、簡単に言えば、インターネットの普及によってコンピューターが勝手に学習していく範囲がほとんど無限大に広がったので、現在のAIが人格を持っているように見えてきたのです。その結果、今はAIが何でも「教えてくれる」時代になったわけですが、このままいくと、いずれAIが人間に何でも「教えてくれない」時代になっていくのではないかという新たな問題も発生してきます。

ここで、「え？どういうこと？」と思われた方には、ユヴァル・ノア・ハラリ氏の『NEXUS 情報の人類史』（河出書房新社）をお勧めします。邦訳が二〇二五年三月（原書は二〇二四年）に出版されてメディアでも話題になったので、すでに読まれた方も多いかもしれません。上巻「人間のネットワーク」も良いのですが、今回はあえて下巻「AI革命」を紹介します。上下巻合わせて五〇〇頁以上もあるので、そんなに読んでいる暇はないよ、という方には下巻だけでも読んでいただきたい。上巻のポイントになっているのは、「ドラえもん」に親しんでいる日本人にはお馴染みの話なので、下巻から読むのも意味が分らないということはないはずです。もちろんハラリ氏が「ドラえもん」の話をしているわけではないですが、冒頭で紹介されるゲーテの「魔法使いの弟子」の話は、私たちがよ

く知っているパターンになっています。

「年離れた魔法使いが若い弟子に工房を任せて出掛ける。留守の間にする雑用も言いつけておく。川から水を運んでくるとも、その一つだった。弟子は楽をすることにし、魔法使いの呪文を使って、自分の代わりに箒に水を運ばせる。ところが、弟子は箒の止め方を知らなかったから、箒はひたすら水を運んでくるので、このままでは工房は水浸しになる。慌てた弟子は、魔法のかかった箒を斧で真つ二つにする。すると、そのそれぞれが一本の箒となる。そして、今や魔法のかかった二本の箒が工房を水であふれ返らせる。そこへ老魔法使いが戻ってきたので、弟子は泣きついて助けを求めら」（上巻9頁）。

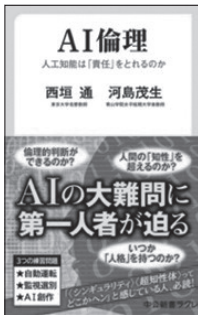
この弟子が「のび太くん」に重なって見えたのは私だけではないと思います。ドラえもんの出す道具は便利だけど必ず欠点があつて、のび太がうまく



『ChatGPT は神か悪魔か』

落合陽一他：著
宝島社新書
2023年
新書判
248頁
1,100円

使いこなせなくて最後は困ったことになるといふオチ。藤子・F・不二雄はゲーテにヒントを得ていたのかもしれない。この便利な道具こそ、まさに現代のAIなのです。とりあえず上巻については、この点だけを押さえて、AIの将来について気になる方はいきなり下巻に飛んでも大丈夫です。下巻ではAIという便利な道具が引き起こ



『AI倫理』

西垣 通、河島茂生：著
中公新書ラクレ
2019年
新書版
258頁
943円

す問題についてリアルに語られます。ドラえもんの場合はいせいのび太が困るくらいですが、AIはもちろんそんなレベルではない大惨事を引き起こす可能性があります。そして、ここでも「誰が責任を取るのか」ということが問題になるのです。今やAIはArtificial Intelligenceではなく、Alien Intelligenceの頭文字であるとも言われ



『NEXUS 情報の人類史 下巻—AI革命』

ユヴァル・ノア・ハラリ：著
柴田裕之：訳
河出書房新社
2025年
四六判
328頁
2,200円

ています(下巻42頁)。「エイリアン」は、人間が想像もしなかったことをしてかすものです。だからこそ私たちは自分の理解を超えた他者との対話を普段から大事にしておく必要があります。そういう意味でも、本書が「対話と協力と友情の産物」(下巻275頁)であるという著者の言葉には大事なメッセージが込められているように私は感じました。

変わなむじり まことつねあひなむすむじり

〔評者〕**松田和憲**



きのうの教会・あしたの教会
2025±X
越川弘英著



著者は礼拝学の第一人者である越川弘英氏で、本書は、コロナ禍により変貌した日本の教会の実情を念頭に置きながら、それに相応したこれからの教会の変わるべき在り方について、斬新な試論を展開している力作である。

本書は三部構成からなり、第一部では、コロナ禍に対応して教会の在り方、礼拝の持ち方等が変化せざるを得ない状況で、結果としてオンライン礼拝を導入するに至った経緯を記している。それは緊急避難的措置であったが、試用する中で、今後の教会の形態、礼拝の内容を再吟味する契機となったことは否定できない。さらには、従来の対面式礼拝とオンライン礼拝との併用によって、教会の新たな在り方を再構築する必要性を説いている。

第二部は、従来の礼拝を相対化しつつ、オンライン礼拝を用いる新たな礼拝の類型の意味、課題等について言及す

る。そして、従来の類型（式文・教派別の比較、機能的側面を指標とする比較）とは異なり、「時間と空間の枠組みにおける礼拝の分類」という発想から新しい比較を試みている。特に「ハイブリッド型」の礼拝様式とその可能性を詳細に検討する。その様式とは対面礼拝を中心に据え、周囲に拡大・展開する形でオンライン礼拝を位置付け、対面礼拝を核とする同心円状に、状況や諸条件の違うタイプの教会の在り方を二重の円で包む図式を想定している。

第三部ではまず「少子高齢化」の実態と変化を踏まえ、次いで社会における未来への取り組みとして「持続可能な開発目標（SDGs）」などを概観する。その後、今後の四半世紀にわたる日本の教会の信徒数・礼拝出席者の激減という内的な課題に焦点を当てる。そして「持続させたい教会」を目指すならば、教会の神学および信仰理解を再吟味

して、それを力強く発信していくべきであることを強調する。さらには、これからの教会は「ハイブリッド・モデル」が主流になると予測し、すでに一定の成果を上げている実践例をいくつか紹介する。それぞれのモデルが「時の徴」を見極めつつ、時宜に合った新しい教会のあるべき姿を目指して、積極的に取り組んでいる姿勢を評価している。その上で、著者はどんな形態であれ、継続すべき最優先の活動は「主日礼拝」であると述べる。そして、主日礼拝がキリスト者の包括的な信仰教育の場となるために、聖書朗読と説教、祈りと賛美歌を整える必要があるというのだ。まさに「アーメン」である。

私事だが、わたしは牧師として四三年間働き、そのうち後半の一三年は大学教師との兼職であった。牧師辞任後、

新たに礼拝する教会を探して約三年間、多くの教会の主日礼拝に参加する機会を得た。説教を「語る者」から「聴く者」になり、思わされたことは、教会が拠って立つべきは「主日礼拝」であり、さらに言えば、礼拝は「説教」によって立ちもし倒れもするという現実である。有り体にいって、人々は「説教を聴くため」に礼拝に来るのである。それゆえ、説教者にとって「み言葉を取り次ぐ」ことが第一義的使命であることは昔も今も変わらない事柄である。本書は、今日の変化著しい社会情勢の中で新たな教会の在りようを模索するすべての人々に有益な示唆を与える労作であるといえよう。一読されることをお勧めしたい。

(まつた・かずのり) 関東学院学院長
(A5判・一六〇頁・定価二六四〇円・日本キリスト教団出版局)

ヨベルの新刊 / 重版案内

持つて生まれたことばを生きる 深澤 奨

格調は低く、ハードルと「コロザシ」は、いや増しに高く! 原発、臓器移植、デザイン・ペビー等、社会の諸問題に聖書からの直接の回答を得ることができない。どうしたらいいか。このさらなる難題に牧師とみティが挑んだ第2弾!

四六判・二〇八頁・一五四〇円

本多峰子 どのような苦しみを神は許しておかれるのか

③ 悪と苦難の問題を考える

全3冊完結!

本書は「神義論」の格闘の歴史をつまびらかにしつつ、現代に生きる一キリスト者として静かな着地点を誠実に探る著者渾身の一冊。

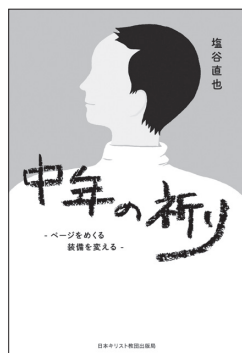
新書判・二二二頁・一五四〇円

① イエスとの出会いと救い 一五四〇円
② イエスの語るたとえ 一五四〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

中年期を挿く滋味深いエッセイと その課題を祈る三十数編の祈り

〈評者〉友納靖史



中年の祈り
ページをめくる 装備を変える
塩谷直也著



「中年期、喪失の始まりです。今までの器が砕かれます。しかし……」

本書を読み終え浮かんだのは、井戸の「誘い水」でした。数は少なくなりましたが、市街地でも災害時は重宝される井戸。汲み上げるポンプはしばらく使わないと水が出ませんが、水を差し、押し続けると地下水が勢いよく昇って来て溢れ出ます。本書の目次で興味の湧くタイトルを読みだした時、私の内面、いや魂の奥底に埋もれていた、何かが湧き溢れ出す感覚を覚えました。エマオ途上で主イエスに出会ったあの弟子達のような熱い感覚に……。言葉にできなかった、いや、することを躊躇していた祈りと御言葉に触れ、神が備えられた「霊性の井戸」から尽きない命の水を汲み出す「誘い水」を得た感覚を感じたのです。

筆者と同一年の私が、老いの始まりを最初に自覚したの

は、潤いを失くした手でレジ袋が広げられず苛立った時でした。当たり前が当たり前でなくなる喪失感。こんなことまで祈って良かったのか……と、著者の豊かな経験と信仰から溢れ出る御言葉に基づく祈りにハッとさせられました。著者自身が四十一歳の時、「死の陰の谷」を通る苦悩に遭遇され、詩編の詩人に与えられた「神が共におられる」との唯一の装備品を身に着け、紡ぎ出された祈りの言葉。ページをめくる度に私の魂にも潤いと平安が注がれました。本書の祈りのタイトルを列挙すると、「気分が乗らない一日の始まりに」「約束を忘れる」「人身事故で電車が遅れる」「職場に愛想が尽きて」「同期が自分より評価される」「介護が辛い」「巣立つ子どもを見送りながら」「物を捨て／整理する」等……。

その中でも、「猫／犬が死ぬ」は、教会が長年目を背け

て来た、ペットの死を悼む人々へのグリーフケアとして、
 実に大胆かつ牧会的視点から恐れず関わる大切さに励まされ
 れます。「親が死ぬ」は二つの異なる祈り方があります。
 愛されて育った子としての感謝の祈りと、親から振り回さ
 れた人生を言語化し、苦悩から解放された平安の祈り。こ
 れらは、中年期に対峙する人生ドラマを網羅した深い配慮
 に満ちています。何よりも、それらの祈りが、模範的信仰
 の帰結で終わらず、魂の叫びをありのまま神に委ね（重荷
 を神へ転がし）ていること。これこそが主が望まれる私た
 ちの真の祈りではないかと……。

蛇口から水道水が当り前のように出てくる生活が失われ
 た時、井戸水を汲み出す必要に迫られます。しかし正にこ
 の時こそ、自らの魂や感覚に頼らず、神が与えられた霊



中年の祈り ページをめくる 塩谷直也 装備を変える

中年期、それは喪失を経験しつつ、新た
 な創造が始まる時期。この人生最大の危
 機の時を生き抜くための必読書。信仰の
 視点から中年期を捉えるエッセイと、中
 年の課題に寄り添う三十数編の祈りを取
 める。

四六判・並製・144頁・定価1980円



80歳から創めるキリスト教 よく生きよく老いよく学ぶ 上林順一郎

「生老病死を生き抜く」「ヨコの広さか、
 タテの深さか」など、人生の知恵が詰まっ
 たキリスト教の入門書。80歳を超えた著
 者だから語れる、どんな世代にも納得し
 てもらえる、聖書による人生ガイド。

四六判・並製・128頁・定価1540円

（「神を神として認識する能力」によって神の力を引き出す、
 心と魂に潤いを取り戻す「誘い水」こそ、祈りだと再認識
 させられました。新鮮なこれらの祈りに触れ、「アーメン」
 と唱える度、求道中のこの方へ、今は教会を離れているあ
 の方へ、人生の課題に苦悩している友らへと、本書を手渡
 したい方々の顔が走馬灯のように浮かんで来ました。これ
 もきつと、宣教への情熱が枯れかけていた私の内なる霊に
 聖霊が働きかけられたからに違いありません。

冒頭に引用した言葉「しかし……」の先は失望でなく、
 これまでとは異なる出会いへの期待感も静かに湧き出しま
 す。古き器は砕かれても、それらを入れる新たな器が主に
 備えられることを期待する一冊となりました。

（とものう・やすし 常盤台バプテスト教会牧師）
 （四六判・一四四頁・定価一九八〇円・日本キリスト教団出版局）

日本キリスト教団出版局
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
 E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》
<https://bp-uccj.jp>

無理解の凄惨な帰結に直面する 今こそ必読の基礎知識

〈評者〉 森本あんり



神学は語る

ファンダメンタリズム

ピーター・A・ハフ著

藤原淳賀、豊川 慎訳



アメリカとイランはいま全面戦争の状態にあるが、一九七九年にイスラム革命が勃発するまで、イランは模範的な親米民主国家だった。いや、少なくともアメリカはそう思い込んでいたのである。革命が勃発するほんの一年前、カーター大統領はテヘランで優雅な晩餐会に出席していたし、CIAですら革命前夜までその機運に気づいていなかった。なぜアメリカは、イランの宗教的熱情という巨大なマグマ塊にかくも無感覚であり得たのか。その理由の一端が、本書に隠されている。

一九七九年は、ジェリー・ファルウエルの「モラル・マジョリティ」が創設された年でもある。当時アメリカ国内ではいわゆる「第二波ファンダメンタリズム」の勃興が進んでいたが、識者たちはそれを「無知蒙昧で無教養な熱狂主義」あるいは「伝統的信仰を装った薄っぺらなマキャベ

リの野心」と見なして真剣に取り扱おうとしなかった。背景には、そもそも宗教という現象を知的に論じることを拒否する近代啓蒙の偏見がある。中東で起きつつあった宗教的熱狂への無理解は、国内のファンダメンタリズムに対するこうした無理解の延長に他ならない。今日の世界は、その無理解の凄惨な帰結を刈り取っているのである。今こそ本書は読まれねばならない。

本書の前半は、「ファンダメンタリズム」という名称の出発点となった一九世紀末以来の教義論争、プリンストン神学校を舞台とする聖書無謬論の展開、再臨や千年王国論をめぐる聖書引照の流行、戦後の福音派復権に貢献したビリー・グラハムの全国的な人気などをていねいに解説する。特に秀逸なのは、従来の研究が見落としてきた女性史との重ね合わせによる洞察である。ファンダメンタリズム



聖書注解 ペトロの手紙一

吉田新
YOSHIDA Shin



本邦初の 本格的註解書！

国内外の同書簡の研究、
註解書を踏まえつつ、ギリシア語原文から綿密に積義。テキストの影響史＝解釈史までも射程を広げて考究している。

菊判・上製本
定価 8,580 [本体 7,800 + 税] 円
ISBN978-4-86325-160-1



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

は、これまで進化論や聖書批評といった神学的な争点における反動として理解されてきた。しかし、時代はちよど「華麗なるギャッツビー」に象徴される奔放で自由な女性像を提示していた。こうした「新しい女性」像への反発が結婚や家庭に関する伝統回帰となってファンダメンタリズムに合流したのである。現代の女性たちがなぜ旧守的とも見える家父長的なキリスト教を求めるのか、と尋ねられることが多い。その答えは文献読解の中にあるのではなく、彼女たちが生きるコミュニティに参加して得られた文化システムの体験という次元にある、というのが本書の教えるところである。

後半では狭義のプロテスタント界を離れ、カトリック、イスラム教、仏教やヒンドゥー教などへも拡大可能なファ

ンダメンタリズムの共通像を模索する。諸宗教の違いを超えて見いだされるのは「聖なる家が火事になっている」という危機感と切迫感だが、同時にその概念の拡大適用には「文化帝国主義」という危険が伏在している、という指摘にも留意しておきたい。

巻末あとがきには、訳者と大住雄一氏を含む数人がICU内の拙宅で開いていた神学研究会のことが記されている。懐かしい想い出である。本書が優れた内容であるだけに、旧友の藤原さんには「ありがとう」といっしょに「何でもっと早く出してくれなかったの」と恨み節をぶつけた。原著出版は二〇〇八年で、訳者跋には「二〇二三年四月」とある。その後の三年間、この本はいったいどこに眠っていたんだよ！（もりもと・あんり 国際基督教大学名誉教授）
(A5判・二七二頁・定価四〇七〇円・日本キリスト教団出版局)

デボーションの真髓

〈評者〉藤本 満



チャレンジ！デボーション
鎌野善三著



著者は、日本イエス・キリスト教団の六つの教会を牧会し、その間、関西聖書神学校の校長をも務めた。二〇二一年には『チャレンジ 聖書通読』、そして昨年末、『チャレンジ デボーション』を著した。

本書の前半で「祈る」ことの真髓を説き明かし、後半は「付録」としながらも、同等の頁数を割いて「わかりやすい聖化論」と題して、キリスト者の完全／きよめ／聖霊のバプテスマをまとめている。

瞬時的な体験を強調するあまり、きよめ派が時として人格形成・教会性・社会性を見失う傾向があったことを認め、その歪みを是正するように丁寧な語っている。だが、それによって真実な福音の賜物を薄めることはない。聖霊のバプテスマを体験しても、「桃栗三年、柿八年」。いくつもの結実を得るために、イエスにとどまり、聖霊によって成長

することが尊ばれる（二六八頁）。その秘訣が「聖書通読」と「祈り」である。

「聖書通読」「デボーション」「聖化論」は、3部作となつて、著者が育てられ、生きてきた霊的遺産を明らかにしている。

著者は、小学一年生のときから聖書を音読して学校に行くという家庭に育つた。その日に必要な神の語りかけを聖書から聞くという「聖書通読」は、すべての信仰者に不可欠な恵みであることを著者は強調している。関西から関東の大学を受験する前の夜、とある教会の一室に泊まり、妙に緊張してよく寝られず、試験当日の朝、いつものように聖書を開いたときのことであつた。

「心臓がとまるかと思ひました……その日その朝に最もふさわしい御言葉を、主は用意してくださっていました」

黙想シリーズ

聖書 聖書協会共同訳

日々の黙想

今ここに 気付く

150の祈りと瞑想

各黙想に、
聖書の言葉と
瞑想の実践法を掲載
対象中学生から

神と共に自分自身でいるために
クリスチャンのための
マインドフルネス実践入門



著者



アイリーン・クレイゲル 著
(心理学者)

合成皮革装・スリーブ入

天地175×左右110mm 360頁

税込価格 2,640円

ISBN978-4-8202-9294-4



JBS 日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
<https://www.bible.or.jp>



『チャレンジ 聖書通読』24頁)。著者にとつて聖書を神のことばとして信じることは、日々語りかけてくださる神の声を信仰をもって聞くことに他ならない。

したがって、『チャレンジ デボーション』の第一章は「聴く祈り」である。日々生ける神のことばを聴くとき、人生の様々な局面にある私たちは、羊飼いなる神によって力づけられ、慰められ、導かれ、その日を生きる十分な備えが与えられる。

「デボーション」という用語は、ラテン語のレクチオ・デイピナ（聖なる読書）に由来する。修道院では、日々、聖書を音読し、黙想し、応答の祈りをしていた。この霊的営みが修道院の外に出て、オランダを中心とした「新しい敬虔」(devotio moderna) と呼ばれる運動となる。トマ

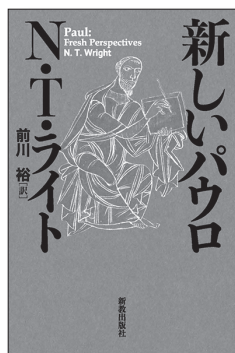
ス・ア・ケンピスの『キリストにならいて』はその結実である。英国ピューリタンにおいて、デボーションは日々の個人礼拝として尊ばれた。祈りそのものとなる詩篇は、携帯できる聖書となる。ドイツ敬虔主義とメソジストにとつて、デボーションは神との交わりそのものとなる。

デボーションの精髓を生きた宣教師B・F・バックストンは、敬虔な魅力をもって日本の教会に力を与えた。著者はその霊的遺産を今に伝えようと「チャレンジ」している。礼拝で説教を聴くだけでなく、日々、神の声を聴き、キリスト者として生きる力にあずかる。聖書が生ける神のことばであると信じることは、そのような信仰である。

(ふじもと・みつる) イインマヌエル高津教会牧師
(新書判・二五六頁・定価一六五〇円・ヨベル)

ライトのパウロ理解の入門書

〈評者〉 鎌野直人



新しいパウロ

N・T・ライト著

前川 裕訳



N・T・ライトはパウロ書簡の研究でオックスフォード大学から博士号を授与されて以来、半世紀近くに渡ってパウロに関する論文や著書を出版してきている。二〇一三年には Paul and the Faithfulness of God (「パウロと神の真実」未邦訳) という二千頁を越える研究書を出版した。『新しいパウロ』は、上記の書を八年さかのぼる二〇〇五年に出版された Paul: A Fresh Perspective (直訳では「パウロ…新鮮な観点」) の全訳である。読み比べると、一般を対象に書かれた本書の議論が後の大著の骨格となっていることがわかる。つまり、本書は、ライトのパウロ理解の入門書なのだ。

ライトのパウロ理解の骨格を簡潔に紹介しよう。

まず、パウロはユダヤ教、ヘレニズムの文化、ローマ帝国という三つの世界を生きている。これらに加えて、パウロ

ロは、四つ目の世界、エクレーシア(教会)と呼ばれる神の民に属している。この民は、ユダヤ人と異邦人からなるメシアの一族、まことのアブラハムの家族であって、上記の三つの世界と重なりつつも、ユニークな存在である。

次に、パウロはイスラエルの聖書が綴っている創造と契約という二つのテーマを統合して考えている。被造物の問題の解決のために契約は存在し、契約内部の問題を解決するために創造が呼び起こされる。そして、ユダヤ教のストーリーもまたこの二つのテーマを統合しており、パウロはその枠組み中でイエスを理解している。

三つ目に、パウロはイエスがイスラエルのメシアであり、イエスを通してイスラエルに対して神が行おうとしたことを成就したと考える。契約に基づく神の契約がどのように成し遂げられるかは、かつては隠されていた。しかし、い

日本における聖書普及
事業150年記念出版

旧約聖書 詩篇

四訳対照

文語訳 口語訳
新共同訳
聖書協会共同訳

歴代の聖書を、
詩篇で読み比べ、
味わってみませんか。



ハードカバー・ケース入

天地210×左右210mm
文字の大きさ約8ポイント
厚さ29mm 422頁

定価 **3,960円**

(本体 3,600円 + 税 10%)
ISBN978-4-8202-4276-5



JBS 日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
<https://www.bible.or.jp>



まやイエスを通してそれが、明らかにされた。
以上の特徴を踏まえた上で、パウロは第二神殿期ユダヤ教の主要な主題である唯一神信仰、選び、終末論を、メシアと聖霊によって再解釈した、つまりイスラエルの聖書を読み直したのだ。ライトはこれを「新鮮な (fresh)」観点でのパウロ神学理解であると呼んでいる。NPP (パウロについての「新しい」観点) はもはや新しくはない。さらに、ライトは、パウロがこの神学に立って彼が住む先述の三つの世界と批判的に向かい合っていたと考えている。リチャード・ヘイズの間テキスト性の研究をベースに、パウロのローマ帝国との対峙を読み取っている第4章(「福音と帝国」)は現代的示唆に富む。

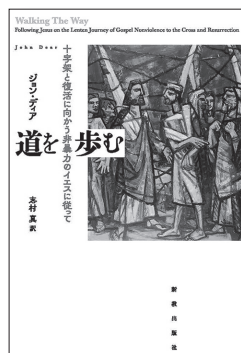
時間がかかったとはいえ、日本においてもパウロに関する

近年の議論が一般読者も読める形で紹介されるのは素晴らしいことである。ただし、本章で提案され、後の大著で展開されたライトのパウロ理解は研究者の間でも議論が続いている。たとえば、近日中に邦訳が出版されるジョン・バークレーの視点からの批判は傾聴に値するだろう。
前川氏は、エペソ人への手紙のギリシア語のようなライトの英文(流暢でありすぎて翻訳者泣かせ)を平易な日本語に訳出している。その労に心から感謝する。訳注も追加されている。なお、48頁の訳注2で「プリムの祭り」というべきか。
「神殿奉献祈年祭」(ハヌカ)と混同してしまったのは愛嬌

(かまの・なおと 関西聖書神学校校長
(四六判・三三〇頁・定価二九七〇円・新教出版社)

非暴力の「最初の朝食」を

〔評者〕 佐藤真史



道を歩む

十字架と復活に向かう非暴力のイエスに従って

ジョン・ゲイア著

志村 真訳



「非暴力のイエス」と聞いて、ピンとくる人は、どれくらいいるだろうか？

わたし自身、ほとんど何も知らなかった。教会や幼稚園で分かち合ってきたメッセージが、「非暴力のイエス」を描けていなかったことをまざまざと突きつけられ、自分が揺さぶられる思いがした。本書に真正面から向き合い、それを生きようとするとき、徹底した「イエスの道」が見えてくる。「イエスは、私たちがただ語るだけ（just talk the talk）でいるのではなく、彼の道を行くこと（walk his walk）を求めて」（9頁）いるのだ。これは神学者ボンヘッファーが警告した「安価な恵み」とは真逆の道といえるだろう。

著者は、レント（受難節）を「イエスの非暴力の足跡を再び歩き始めるのに良いとき」（9頁）であり、「回心のと

き」（12頁）だとする。この「非暴力への回心」のために、20の「黙想と問い」が繰り返り広げられていく。

また、本書に散りばめられた訳注から、こんなにも訳者の知性と思いが伝わってくるのも珍しい。特に最長の訳注では2ページ（！）を使って、ジョージ・サベルカ神父を解説する。原子爆弾を投下したエノラ・ゲイ号（広島）およびボックスカー号（長崎）の搭乗員を祝福した神父が、戦後、悔い改めと罪責告白へと導かれた。「非暴力への回心」は確かに起こっているのだ。

著者は、「壊れたレコードのように同じことを何度も繰り返す」（143頁）ことを厭わない。強調するメッセージは明快である。「イエスは非暴力」であり、その「道」に従うキリスト者は「福音的非暴力の実践者」（9頁）となることが求められている、ということだ。

特に心を打つのは、ユーカリスト（8章）と復活（18章）についての大胆な解釈である。

聖餐式（ユーカリスト）において、教会では「最後の晩餐」におけるイエスの言葉を引用しているが、「ガンディーの非暴力の解釈に照らしながら考える」（95頁）ことはまったくなかった。そのレンズを通して見るとき、イエスが受難においても徹底して非暴力を選び続けていたことに気付かされた。イエスは「その人たちの体を私のために裂きなさい！」と復讐するのではなく、自らを「新しい非暴力の契約」として差し出した。「戦争で他者の体を裂く。他者の血を流すな。私があなたがたのためにしたのと同じように、他者のためにあなたがたの命を非暴力的に与えなさい。これが私を記念する最良のあり方である」（96頁）。

この解釈は、暴力の世界に生きるわたしたちが受け取るパンと杯を、まったく新しいものにしていく。

復活したイエスの解釈にも目を開かされる思いがした。裏切りと逮捕、十字架刑を前に、逃げ出した弟子たちがいた。にも関わらず、復活したイエスは、そんな弟子たちに復讐も非難も裁きもしなかった。その代わり、弟子たちのために「朝食」を作り、その食卓へと招く。「最後の晩餐

から最初の朝食」（178頁）への転換が起こっているのだ。

さらに著者は「炭火」（179頁）に注目する。イエスのことを三度知らないと言ったペトロが、裁判所の庭で暖を取っていた「炭火」。聖書には同じ「炭火」という言葉が、ほかにもう一箇所しか出てこない。それは、復活したイエスが「炭火」でペトロたちのために魚を焼いていた場面。もはやそこは暴力に満ちた裁判所の庭ではない。非暴力の「イエスの庭」へと転換しているのだ。

暴力の「炭火」が燻り続けるこの世界にあって、わたしたちは非暴力の「最初の朝食」をつくり出していきたい。

（さとう・まさし）日本キリスト教団荒尾教会牧師・荒尾めぐみ幼稚園園長

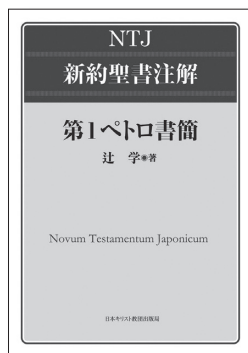
（四六判・二一六頁・定価三二〇〇円・新教出版社）

連続講解に取り組み説教者と 共に歩む心強い旅の道連れ

〈評者〉朝岡 勝

説教者にとって注解書とはなくてはならない大切な道具であり、心強い助けです。連続講解説教に取り組み続ける途上では共に歩む旅の道連れのような存在でもあり、新たな講解説教を始めようと思えば関連する注解書を揃えることが旅支度になるでしょう。その際に、限られた予算と時間と能力の中でどんな注解書を選ばよいか。あまりに大部で専門性が高いものでは読みこなすのが難しく、あまりに簡便で平易なものではテキストの深みに達することが難しい。その点で現在刊行中の「NTJ聖書注解」は日本語で読める最良のシリーズであり、旧約の「VTJ聖書注解」ともども続刊の刊行を強く願うものです。

日本の新約聖書学を力強く牽引する著者辻学先生は、すでに『現代新約注解全書』（新教出版社）の『ヤコブの手紙』（二〇〇二年）、『牧会書簡』（二〇二三年）という本格



NTJ新約聖書注解
第1ペトロ書簡
辻学著



的な注解を公にされ、第1ペトロについても略解を著しておられますが、本書は二四五頁という分量の中に豊かな内容が凝縮されており、説教を目標して聖書を釈義する牧師たちにとって実に心強い一冊です。ぜひ説教者には、準備に追われて当該箇所を読むのでなく、一冊の読書のようにじっくりと全体を通読することをお勧めします。以下、評者なりの本書の意義を挙げてみます。

第一に、緒論においては第1ペトロ書簡にまつわるテーマが簡潔かつバランスよく扱われ、同書簡に関する基本的な情報や議論となる課題が整理されています。特にパウロ書簡との関係性については、その論拠が手際よく整理されていて説得的です（一九〜二三頁）。

第二に、注解の基礎的な作業である原典釈義とともに、八種類の日本語訳聖書（六頁）の丁寧な比較と吟味が行わ

れ、「邦訳聖書の訳文にできるだけ触れつつ、原語で読むことの意義が明らかになるよう努めた」（二四四頁）との著者の読解・釈義の深さと正確さが如実に示されています。第三に、上記との関連で本シリーズの「古代ギリシア語（その他の古代語）を用いはするが、その知識は前提しない一方で、脚注による二次文献との詳細な折衝を基本的に「行わない」（四頁）との方針に沿いつつも、かなりの字数を割いて各種研究、翻訳、注解書との批判的対話がなされており、当該箇所訳文や注解に関する切れ味鋭い吟味と評価、論拠の提示の公正さは、読んでいてある種のスリルと爽快感を覚えるほどです。

第四に、注解本文は第1ペトロ全五章が十七の単元に区分され、上記二項の特色が存分に生かされながら、「語」、「句」、「節」、「文」レベルでの丁寧な釈義と注解が施されています。特に本書簡の難所と言える三章一九節には約四頁（二六九―二七三頁）、四章六節には約五頁（一八三―

一八七頁）が割かれ、集中した釈義が提示されていて、読者は聖書を読む醍醐味を存分に味わうことでしょう。

そして第五に、全体を読み終えて評者の心に深く留まったのは、各単元の終わりの【解説／考察】のことばから伝わってくる日本の教会に対する思いです。「この世界の中で神に聴き従いつつ生きる」具体的な生への問いかけ（五九頁）、試練の中での神との信頼関係の決定的な重要さの指摘（七三頁）、「偽りなき兄弟愛を目指して互いに愛し合う生」（八九頁）への促し、隣人たちとともに連帯し、協働して生きる教会のあり方へのチャレンジ（一九五頁、二二六頁、二二二頁）等々。本書を旅の道連れとして説教壇に向かうと、この問いかけをも引き受けていくことになるでしょう。そしてこれらの問いを担いつつテキストに向かうことも「聖書を読み、説く」ことが求める姿勢なのだと思います。（あさおか・まさる 〓 日本同盟基督教団多磨教会牧師

（A5判・二四八頁・定価四四〇〇円・日本キリスト教団出版局）

教会とキリスト教教育の現場にある方々を元気づける希望の書

〈評者〉岡田 仁



みんなで神の国を
キリスト教教育という希望
小見のぞみ著



世界はいま、排他的な自国主義へと傾き、戦争と分断が広がり、核の脅威が地球規模の破局をもたらしかねない時代を迎えている。非暴力と共感力をもっていのちをばくくむべき宗教は、その本来の力を十分に発揮できず、教会もまたその影響を免れているとは言いがたい。「いまとこれからを生きる学生たちにキリスト教の何を伝えるべきか」。新学期の前に思案していた時に、「この閉塞感を突破するのはキリスト教教育という希望だ」と語る本書と出合えたことは、評者にとってこの上ない喜びであり、深い慰めでもあった。

本書は、四十年以上にわたりキリスト教教育に携わってきた著者が、歴史的検証と現代の課題を踏まえつつ、「非暴力」と「子ども本位」を鍵語に、キリスト教教育の希望を再構築しようとする、小見神学の集大成である。

著者は、縮小傾向にある日本のキリスト教界においてこそ、教育が神の国とともに築くための重要な営みであると主張し、子どもたちの問いに寄り添うキリスト教教育の意義と重要性を提示する。

第一に、著者は現代の子どもたちが抱える「問い」（自己・死・神・倫理・信仰）に応答する宗教教育の必要性を強調する。また、子どもが弱者として扱われがちな社会状況のなかで、宗教教育は子どもに「絶対的な承認」と「愛」を伝える場であると位置づける。罪や恥を強調する教育が傷を生む現実にも触れ、非暴力的で受容的なキリスト教教育への転換が、いまこそ切実に求められている。

第二に、日曜学校の歴史とその影響を再検討することで、戦前の教案が伝道と道徳を重視し、時に国家主義や軍国主義に協力した事実が明らかにされ、戦後の制度改革や「日

曜学校全廃論」などの議論も紹介されている。こうした検討を通して著者は、子どもを神の子として尊重し、礼拝と祈りを中心に据える新たな教会教育の方向性を示す。田村直臣の「こども本位のキリスト教育論」は、制度改革を検証する上で重要な視座を与えてくれる。

第三に、著者は非暴力と平和を基盤とした教育の未来像を描く。宗教二世の苦悩や宗教的虐待の問題にふれつつ、支配や恐れではなく、イエスの子ども観に基づく温かい受容こそが教育の核心であると説く。さらに、物語・メデイア・リクリエーションなど多様な方法を吟味しつつ、協力や創造性を育む実践を提案する。神の愛と平和を次世代に伝える教育こそ、二十一世紀の教会の使命であると結ぶ。こうした議論を象徴するかのように、著者は次のように語る。

「福音という原動力によってなされてきた日曜学校という流れの、最後のはしっこに今わたしたちはつながっている。

ます。この流れは今、世界のなかで途絶えてしまうかのうに小さなせせらぎとなっています。けれどもそのせせらぎの出発点には、イエスさまが届けてくださった福音があるのです。キラキラと輝くこの『よい知らせ』をわたしたちの教育、保育が泉とするかぎり、この流れは途絶えることはありません」(五五頁)。

子どもの尊厳や人権を守るキリスト教育は、神の愛の創造を回復するリ・クリエーション(再創造)の働きである。だからこそ、それは「みんなで神の国を」目指す私たちにとっての、揺るぎない「希望」なのだ。

日本キリスト教団出版局最後の刊行物にふさわしい内容の本書が、教会とキリスト教育の現場にある人たちを励まし、元気づける本として、広く活用されることを信じてやまない。

(おかだ・ひとし) 明治学院大学教養教育センター教授
(A5判・一五二頁・定価一七六〇円・日本キリスト教団出版局)

■ヨベル

キリスト教思想史の例話集Ⅳ

—愛のかたち—

金子晴勇著

キリスト教思想史での愛の思想が一貫して説かれるようになった系譜を辿る。神との関係で愛が考察され、そこには神の愛と世俗の愛とが区別されるだけでなく、愛が神によって秩序づけられるという思想が生まれてきた。

新書判・256頁・定価1540円

悪と苦難の問題を考える

—このような苦難を神は許しておかれるのか—

本多峰子著

悪と苦難の問題を考えるこのような苦しみを神は許しておかれるのか。古来「善なる神に創造されたはずのこの世界になぜ悪があるのか、世界はなぜ苦悩に満ちているのか」という問いは人々を悩ませ、「神義論」という分野における論議が烈しく繰り広げられてきた。本書はその格闘の歴史を研究者視点でつまびらかにしつつ、現代に生きる一キリスト者として静かな着地点を誠実に探る。

新書判・200頁・定価1540円

■教文館

『キリスト者の自由』を読む

—ルターと現代神学—

E・ユンゲル著

INFORMATION

近刊情報

佐々木勝彦訳

ルターの福音信仰の魅力を明らかにした古典的名著を、現代神学との関係から再読。(神と人間)(外的人間と内的人間)(自由と奉仕)の関係に新たな光を当てる！ プロテスタンティズムの本質を理解するためにも必読の書。

B6判・180頁・定価2640円

■新教出版社

ツインツェンドルフの神学(仮題)

エーリヒ・バイロイター著

梅田與四男訳

敬虔主義の形成と拡大に巨大な貢献を果たしたツインツェンドルフの活動に関する研究は多いが、神学思想の解明は十分でない。本書は斯界の第一人者が、ツインツェンドルフのキリスト中心主義、三一論、結婚論、聖書論、教会論などを徹底的に論じた貴重な論文集。

四六判・240頁・予価3000円

シュライアマハー

—その生涯と思想(仮題)—

ヘルマン・フィッシャー著

伊藤慶郎訳

一九世紀の最大の神学者であり、バルトにも多大の影響を及ぼし、近年批判版全集の刊行が進み、再び注目が集まるシュライアマハー。その生涯と思想を、全集の編者でもあった著者がコンパクトに紹介した入門的評伝。

四六判・240頁・予価3000円

| 書店名 | 郵便番号 | 住所 | 電話 | ファックス | URL | メール | 郵便振替 |
|---------------|----------|------------------------------|---------------|---------------|---|----------------------------|----------------|
| 善隣館書店 | 020-0025 | 盛岡市大沢川原3-2-37 | 019-654-1216 | 共用 | | | 02350-0-874 |
| エッセイの木 | 980-0012 | 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F | 022-223-2736 | 022-302-6678 | https://essainoki.jp/ | shop@essainoki.jp | 02230-0-31152 |
| 恵泉書房 | 260-0021 | 千葉市中央区新館2-2 千葉カリアセンタービル | 043-238-1224 | 043-247-3072 | http://www.keisen.christian.jp | keisen@vestia.ocn.ne.jp | 00120-9-43619 |
| 教文館 | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1 | 03-3561-8448 | 03-3563-1288 | http://www.kyobunkwan.co.jp | xbooks@kyobunkwan.co.jp | 00120-2-11357 |
| 待星堂 | 167-0053 | 東京都杉並区西荻南3-16-1 | 03-3333-5778 | 共用 | http://taishindo-books.jimbo.com/ | taishindo@jcom.home.ne.jp | 00110-8-95827 |
| バイブルハウス東京 | 169-0051 | 新都区早稲田3-18(A)02ビル2F(通称専門) | 03-3203-4137 | 03-3203-4186 | http://biblehouse.jp | biblehouse@bible.or.jp | 00160-2-18410 |
| 東京キリスト教書店 | 112-0014 | 文京区目黒1-44-4東目黒ロビル1F(通称専門) | 03-3260-5663 | 03-3260-5637 | | tokyo@nikkikan.co.jp | 00130-3-60976 |
| 横浜キリスト教書店 | 231-0063 | 横浜市中区花咲町3-96 | 045-241-3820 | 045-241-5881 | http://www.tuighte.net/~yokohama-us/index.html | sksch@mvva.biglobe.ne.jp | 00250-4-2512 |
| 清光書店 | 951-8114 | 新潟市営所通一番町313 | 025-229-0656 | 共用 | | | 00560-8-51419 |
| 静岡聖文舎 | 420-0866 | 静岡市葵区西草深町20-26 | 054-260-6644 | 054-260-5612 | http://www.s-seibun.co.jp/ | info@s-seibun.co.jp | 00810-8-26558 |
| 名古屋聖文舎 | 466-0045 | 名古屋市中区大須16日教キリスト教図書教会内 | 052-680-8090 | 052-680-8091 | http://nagoya-seibunsha.la.cococan.jp/ | nagoya-seibunsha@nifty.com | 00810-5-14073 |
| バイブルハウス京都 | 606-0007 | 京都市北区新町22-15日本基督教団平野教会(通称専門) | 090-5138-7020 | 075-320-1844 | | kyoto-ibs@bible.or.jp | 01010-2-594 |
| バイブルハウス堺 | 591-8023 | 堺市北区中百舌島町2-87 チャペルこつり2F | 072-255-4970 | 075-255-4971 | | sakai-ibs@bible.or.jp | 00160-2-18410 |
| 大阪キリスト教書店 | 552-0003 | 大阪市港区灘2-2-18 港ルネール教会1F | 06-6377-6026 | 06-6377-6027 | http://osekacbs.web.fc2.com/ | ochrbook@river.ocn.ne.jp | 00990-3-43009 |
| 堺キリスト教書店(聖燈社) | 591-8044 | 大阪府堺市北区中長尾町2丁1-18 | 072-254-2233 | 共用 | | sakaixx@outlook.jp | 00970-0-172228 |
| 神戸キリスト教書店 | 650-0025 | 神戸市中央区船生町4-5-12 神戸駅前ビル401 | 078-331-7569 | 078-945-9388 | | kobex@nikkikan.co.jp | 00170-2-421390 |
| 広聖聖文舎 | 730-0841 | 広島市中区舟入町12-7 | 082-208-0022 | 082-208-0177 | | hseibun0951@yahoo.co.jp | 01360-4-1958 |
| リバーサイドブックス | 779-1105 | 徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道/西13 | 090-8694-4986 | 050-3142-3017 | | ykwbt3@gmail.com | 16220-17974891 |
| 松山キリスト教書店 | 790-0804 | 松山市中一万町1-23 | 089-921-5519 | 089-921-5413 | http://www.geocities.jp/matsuyama_1007/mbs.html | sksch@dokidoki.ne.jp | 01650-1-2120 |
| 新生館 | 810-0073 | 福岡市中央区舞鶴2-7-7 | 092-712-6123 | 092-781-5484 | http://www.sinseikan.jp/ | info@sinseikan.jp | 01750-5-10932 |
| キリスト教書店ハレルヤ | 862-0971 | 熊本市中中央区大江4-20-23 | 096-372-3503 | 共用 | | k-haleruya@bible.or.jp | 00160-2-18410 |
| 沖縄キリスト教書店 | 904-2143 | 沖縄県沖縄市知花4丁目12-33 | 098-927-0220 | 098-938-1102 | https://www.okinawacbs.net | info@okinawacbs.net | 01790-4-152916 |

※一般書店関係の方は 日キ販売部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2026年5月号

特集Ⅱ教会の生き残りではなく、
信仰者の歩みの継続を

寄稿者Ⅱ久世そらち、林義亜、寺田留架、
北口沙弥香、金井美彦、福嶋裕子

◆書評ミルバンク『神学と社会理論』、加藤喜之「福音派」◆連載スズレなるままに（川口弾）人物、日本キリスト教史（戒能信生）／ぼやき牧師のさすらい説教録（富田正樹）／異端者の世界航海（福嶋場）／釈義ルカ福音書（山崎ランサム和彦）他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から

書店の危機が言われて久しいが、本にもプラスアルファの何かがあれば人は寄ってくる。神保町散策の折、カフェとイベントスペースを併設した書店を覗いたら、店内が客で埋め尽くされていて驚いた。カフェの部分は満席で、周りを囲む書棚の前にも人がぎっしり。大半はカフェの席が空くのを待っていたのかもしれないが、棚から本を手にとっている人も少なからず見えたので、本にまったく関心のない客ばかりでもないようだった。

書籍と一緒に文房具やレンタルビデオを扱う店は以前からあり、ブックカフェもすでに定着している。加えて最近では、書店主催のイベントごとが増えてきた印象がある。従来からあるサイン会やトークショーはもちろん、読書会、

予告

本のひろば

2026年6月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）片柳弘史「知恵の結晶、教会の宝」『キリストにならいて』

（書評）フランク・ケリー著「届かずとも綴り続けた宣教師」、青島忠一朗著「アツカド語文法」、上林順一郎著「80歳から創めるキリスト教」、金承哲著「神学と文体」、森田安二著「ドイツ語圏宗教改革」、並木浩一著「アモス書を読もう」他

ビプリオバトルなど参加型のものも多く、中には友人作りや婚活を目的としたイベントもあるらしい。本を介した交流の場を開く、書店らしさを活かした取り組みだと思う。

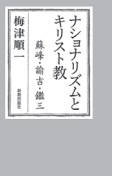
一方で、そうしたイベントなどが「プラスアルファ」に留まらず、書店に足を運ぶ第一の動機になるのだとしたら、ちよつと首を傾げなくなる。書店に人を集め利益を上げることは急務だし、動機は何であっても本に触れることが大事だとも思うが、個人的には本屋ではまず本を見たい。そこに行けば思いがけない一冊に出会える。ただの本好きとしては、それが本屋の一番好きどころだ。

ちなみに、冒頭の店ではカフェから離れた奥のほうに専門書の棚があったのだが、そこには客がほとんどいなくてガラガラだった。なんだよ、とガツカリすると同時に、本と自分だけの空間に少し安心してしまった。（豊田）

ナシヨナリズムとキリスト教

梅津順一著 蘇峰・諭吉・鑑三 4月10日

平民主義を掲げて論壇デビューしたが、列強が角逐する帝国主義的状况を目にして力の福音に転向し、晩年は大東亜戦争を鼓舞するに至った徳富蘇峰。その思想のドラマを福澤諭吉、内村鑑三と比較しながら辿った講演・論考集。 四六判・定価3080円



ツインツェンドルフの神学

エーリヒ・バイロイター著 梅田與四男訳 敬虔主義の核心をめぐる

彼が懐いていた「十字架の神学」を中心として、キリスト論、三位一体論、聖書論、宣教論、教会論、信仰論などの多様な主題を神学的に解明した名著。 A5判・定価5390円

4月24日

ビリー・グラハム ひとりひとりの魂と向き合った伝道者

グラント・ワッカー著 相川裕亮、田中稔十訳 3月25日

大群衆に獅子吼する大衆説教者。冷戦期に歴代大統領に影響を与えた祭司的預言者。だが実像はひとりひとりの魂に向き合おうとした伝道者ではなかったか。複雑な素顔に迫った最新評伝。 四六判・定価5390円



帝国の神道とキリスト教

洪伊杓著 近代日本のキリスト者における神道理解と社会思想 3月25日

キリスト教と神道との融合を図った海老名弾正の思想とその影響を丹念に辿った思想史研究の労作であると共に現代日本のキリスト者への問題提起の書でもある。 A5判・定価7700円

排斥と抱擁

アイデンティティ・他者性・和解の神学 大反響

ミロスラフ・ヴォルフ著 彦田理矢子訳 異質な者を憎悪し排斥する者を、愛し抱擁することなどできるのか。凄惨な旧ユーゴ内戦を経験した著者は、罪と赦しの問題を、幅広い論客と対話しつつ十字架の神学に基づいて徹底的に考え抜く。 A5判・定価7920円

聖書翻訳と宣教

吉田 新著 日本語訳聖書関連資料の研究 2月25日

口語体から文語体、そして再び口語体へと変化していった文体の変遷に注目し、膨大な資料に基づいて先人の労苦の跡を辿り、狭義の言語論を超えて宣教論の観点から新たな翻訳論を切り拓く。 A5判・定価6600円



富田正樹「著」 新キリスト教入門 その2

戸惑いながら信じてる50



現代のクリスチャンは社会の諸問題に聖書からの応答や回答を得ることができないのか？ 聖書が書かれた時代、戦争、暴力、搾取、差別などの話題には反応するが、でも原発、臓器移植、デザイナー・ベビーなどについてはナッシング!? どうしたらいいか。このさらなる難題に牧師とみティが挑んだ**第2弾!**

四六判・二二六頁・一五四〇円

富田正樹「著」 新キリスト教入門 その1 **3刷出来**

戸惑いながら信じてる50

私は疑いながら信じています。キリスト教を信じる人たち（クリスチャン）の中には疑いなど全く抱かずに、まっさら無邪気に信じ込んでしまっている人がいます。それはそれで結構……でも、どう展開する!? 四六判・一九二頁・一五四〇円



深澤奨著 持つて生まれたことばを生きろ ヤコブ書 試訳・註・メッセージ

パウロ大先生を正面切って批判する過激で危険な書物が新約聖書に紛れ込んでいた!

四六判・二二四頁・一八七〇円

東洋英和女学院大学 死生学研究所「編」

死生学年報 2026



死について考えることは、生をより深く味わうことだ。現代に生きる人々が生の現場で必然的に向き合うことになる（死、葬送、墓制）の諸相を丹念に取り上げ、そこに再生への息吹を聴取する。死生学研究の最前線からのレポートがこの一冊に。

A5判・二四〇頁・二七五〇円

本多峰子 このような苦しみを神は許しておかれるのか

悪と苦難の問題を考える



本書は「神義論」の格闘の歴史をつまびらかにしつつ、現代に生きる一キリスト者として静かな着地点を誠実に探る。【全3巻完結】

新書判・二二二頁・一五四〇円

イエスとの出会いと救い 新約聖書の人びと 一五四〇円

イエスの語るたとえ今、あなたはどう生きるか 一五四〇円

エックハルト 阿部善彦「訳」

教導講話 若き修道者のための言葉



中世の神学者であり、霊性の巨匠が語るエックハルト版——

「君たちはどう生きるか」。

新書判上製・二八〇頁・一九八〇円

反響!

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二六年五月一日発行（毎月一回）日発行
本のひろば 第八二二号 二〇二六年五月号

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口一四四一四 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3136-1652 振替001-2679
発行人 金子和人 編集人 村上信児 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3136-0156

定価七八円（税抜七一円） 63円
一年分二二〇〇円（送料共）

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp https://yobel.co.jp 出版の手引き / 呈 (税込)
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

本のひろば.com

